

The image shows a modern interior space with a high ceiling made of exposed wooden beams and rafters. A staircase with dark wooden steps and a metal railing is on the left. The walls are a mix of white and aged, textured wood. A large window is visible at the top, and a door is at the bottom center. The overall atmosphere is warm and industrial.

JID AWARD 2016

JID アワード 2016 入賞作品



JID AWARD 2016

「JID AWARD 2016」は、「あたらしい日常」をテーマに、2016年1月～3月の間、公式ウェブサイトで公募を行った。応募条件をクリアした134点を審査対象とし、ウェブ上に登録された資料に基づいて第1次、第2次の審査を行い、現地審査や現物審査を行う第3次審査を経て、ゲスト審査委員の参加を得た最終審査で、大賞1点、インテリアスペース部門賞3点・入選5点、インテリアプロダクト部門賞3点、NEXTAGE部門賞10点の作品を選出した。受賞作品は、公式ウェブサイトで発表するとともに、受賞作品展でパネルによる展示が行われる。

■大賞 Grand Prix

富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー

平瀬 有人・平瀬 祐子 (株式会社 yHa architects)



(c) Y.Harigane (Techni Staff)

審査講評：佐賀県鹿島市にある有形文化財の旧精米所（1921年）を来訪者の試飲や酒造り展示のできる酒蔵ギャラリーに改修したものである。空間内部のデザイン方法としては、古民家改修によく見られるような柱梁の接合部を補強する方法ではなく、12mm厚の黒皮鉄板の壁をつくり、4.5mm厚のリブ枠材を取り付け、四合瓶を展示する什器となるように仕上げているところが大変珍しく、爽やかに感じられた。設計者がここで鉄板を用いたのは、黒皮鉄板にも土壁の持つエイジングと同質の錆びゆく美学があると感じたからとのこと。また、ギャラリー内部の展示物を観る楽しみと正方形の孔を通じてこの建築をみるという複数の視点を同時に得ることもまたこの計画の重要なテーマのひとつであったと云う。空間全体の“間”の気持ち良さ、リズム感の良さ、そして土壁や錆び鉄などマテリアルの使用に見られるセンスの良さなどがクオリティーの高い作品を作り上げており、高く評価された。(岩倉榮利)



川島 茂 (鹿児島県立短期大学) 鈴鹿 美穂・佐々木 亜美・西脇 梓 (川島鈴鹿建築計画)



審査講評：東京の下町情緒豊かな商店街で3代続く天麩羅屋とその家族の住居である。1階店舗部分は、従来の営業形態を保ちながら間口を広く確保するためLアングルを4本束ねた柱を採用。この構造は1F店舗に広さと個性を生み出し、さらに2、3階の住居部分を細長いながらも開放的な空間としている。異質にも見える店舗と心地良さが観ただけでも伝わる住居部分のデザイン、そして二つの顔を持つファサードによる街との関係は、作者の意図である適度な距離感の確保につながり、「あたらしい日常」を生み出している。またオーナーの手作りによる家具やメニュー等の質の高さもあって、この作品がデザイナーの力量に加えオーナーとの幸せな巡り合わせにより出来上がっている事を感じさせる。(近藤康夫)

まるほん旅館 風呂小屋

久保 秀朗・都島 有美 (株式会社久保都島建築設計事務所)



審査講評：400年つづく老舗旅館の風呂小屋の建替えである。1階浴室と2階の湯上り処が局面スラブで分けられ、その形状から浴室では空気の流れを作り、湯上り処では局面スラブが背もたれとなって、眺望を楽しめる仕掛けとなっている。空気の流れや背もたれとしてのすわり心地など綿密に計算された形状が豊かな快適性ととも大胆で大変美しい空間を作り出している。(木辺智子)

BAO BAO ISSEY MIYAKE 銀座

平綿 久晃・渡部 智宏 (株式会社モーメント)



審査講評：百貨店1階の外部に面する半独立店舗である。そして世界的に、あまりにも有名なプロダクトを展開するブランドである。「シンプルなピースが集まって思いがけないものになる。偶然性が生み出すかたちと機能が毎日を楽しむ。」といったブランドコンセプトからインスパイアされた「素材からのデザイン」がプロダクトと見事に呼応している。空間構成はシンプルながら、ブランドの根幹に迫る、素材への追求が高く評価された。大きさばかりにスケールメリットがあるのではなく、小さなスケールメリットを利用した手業による偶然性は、空間に心地よい緊張感と密度を与え、今の時代感からくる脱力系、自然体の対局に位置しており際立っている。(米谷ひろし)

■インテリアプロダクト部門賞 Interior Product Award

エノツミニマルチェア

橋田 規子 (NORIKO HASHIDA DESIGN)



審査講評：「ミニマルチェア」の名称が表すように、背の付いた小振りのスツールといった感覚にまとまっている。座面はチェアと思って座ると小さく感じるが、スツールと思えば納得できる。背のサポートは程よく、全体のプロポーションもバランスが取れている。スタッキングのディテールも良い。4色の商品揃えは、ユーザーが4色を買って使用するという、今日的インテリアデザイン手法に応えられている。自重 2.1Kg の軽さは、素材とフォルムデザインの成果として評価できる。この軽さも含め、様々な生活シーンに対応できるチェアとして、今回の AWARD のテーマ「あたらしい日常」を感じさせ、部門賞に選ばれた。(小宮容一)

Aluminum Honeycomb hybrid Furniture WING-2

黒河 優子・黒河 雅行 (有限会社 黒河デザインプロダクツ)



審査講評：長年、アルミハニカムパネルを用いてユニークなノックダウン方式の家具を追求してこられた成果である。木製では不可能な薄さと強度を持つ部材を組み合わせた軽快で美しいフォルム。最先端の技術を用いた極めて現代的な家具でありながら、漆を思わせる塗装が施されていることもあり、和風も感じさせる。どこに置こうかと想像をめぐらす楽しさもありそうだ。「現代の住居に非日常的の空間を創出し、新たなくハレ>を創り出す家具としての提案」というデザイナーのねらいは、成功していると云えるだろう。今回の AWARD の「あたらしい日常」というテーマにも適合しており、優れたインテリアプロダクトとして評価された。(安藤 清)

Sunnyhills pop-up shop

富永 大毅・藤間 弥恵 (富永大毅建築都市計画事務所)



審査講評：催事場の什器としてデザインされたこのユニットには不思議な面白さを感じる。ユニットの組み合わせ方によっては不安定な危険性が見え隠れする。しかし実物を見るとそれは危なげなく面白さに繋がっていると言って良い。複雑な五角形のユニットのデザイン其の物より、それが利用される空間や目的によってユニットの組み合わせ効果と面白さが発揮されると思う。使い手の感性を要求するデザインである。ロシアンバーチの素材を選んだことも強度と美しさの面で良かったのではないだろうか (川上玲子)

■NEXTAGE 部門賞 NEXTAGE Award

審査講評：まだ施工や製品化がなされていない提案デザインを対象にしたこの部門には、前回より多くの作品が寄せられ、いずれも挑戦的な姿勢で、デザインのレベルも高く、審査をしていても楽しかった。また、中には、障がいを持つ人や災害を被った人々のための提案もあり、デザイナーの意識の高さがうかがえる。学生による提案作品が多いと思っていたのだが、最終審査終了後、入賞者には学生だけでなく、プロのデザイナーも少なくないことがわかった。嬉しく頼もしい状況と云えるだろう。(清水忠男)

部門賞+五十嵐久枝賞

interior cell アルゴリズムを用いたインテリアマテリアルのデザイン

薄上 鉦太郎



表面張力による水膜

清水 孝一



すむいえー応急復興住宅

田中 明香音



Table Palette

前野 慧・ 原地 千尋



MIRAGE CUBE

西 毅徳



部門賞+石橋勝利賞

BRECHT 001

山下 麻子・ 山中 コ〜ジ・ 山中 悠嗣 (pivot)



solaris

織笠 琢



たわむ、つくえ

堀場 絵吏・ 成子 夏芽・ 谷 清鳳・ 泊 舞香・ 仲津 佑哉
佐藤 優子・ 岩政 音緒・ 平野 絢 (建築研究会)



Switch

山本 達雄 (有限会社山本達雄デザイン)



美術館のための電動車椅子

鈴木 僚



あまねの杜保育園

相坂 研介 (相坂研介設計アトリエ)



数研出版関西本社ビル

有田 博・吉田 直弘 (株式会社 竹中工務店)



生活から生まれる形

中園 美博・張替 那麻 (株式会社 twha)



me ISSEY MIYAKE 玉川

平綿 久晃・渡部 智宏 (株式会社モーメント)



西武池袋本店プレステージゾーン

平綿 久晃・渡部 智宏 (株式会社モーメント)



2016 JID AWRD 全体講評

ゲスト審査員 五十嵐久枝

(IGARASHI DESIGN STUDIO 代表、武蔵野美術大学教授)

最終審査会は、今回のテーマ「あたらしい日常」と作品の関連性について活発に議論する審査会であった。NEXTAGE では、多くを占めるプロダクトのなかに、形素材の特徴だけでなく、セルフビルドやコミュニケーション重視した独自の視点をもつプロダクトの提案が見られた。大賞の選出は、リノベーションのデザイン性について熱い議論が交わされ、今後も注目していきたい。インテリアスペース部門には優れた作品が多く、受賞数を増やすことに異議はなく、充実した内容となったように思う。

ゲスト審査委員 石橋勝利 (株式会社 AXIS、AXIS 編集長)

すべてを一新するのではなく、“古き良き”を残しつつ、過去から現在につながる線を未来へと、さらに心地よく伸ばしていく。単純なリノベーションではなく、革新的な技術を採用しているわけでもないけれど、新しさを感じる。そして、目の前の壁を超えるためのアイデアには潔さと爽やかさを感じる。それが現代における「新しい日常」でしょうか。今回評価の高かった作品には、そんな新しい日常を体現したものが多かったと思います。

JID 理事長 池田和修

「あたらしい日常」をテーマに、様々な挑戦的作品の応募があり、どれもが力作で優劣つけがたく審査が難航した。インテリアスペース部門、インテリアプロダクト部門ともに、素材感・システム化等にこだわった、商空間にかかわる作品が多く含まれていたことが印象的であった。NEXTAGE 部門の最終審査対象は、いずれも際立ってユニークな発想による作品で、次の時代を担うデザイナー達の今後の活躍が大いに期待される。

JID AWARD とは JID AWARD は、長年「JID 賞」の名のもとに開催されてきた公募賞を引き継ぎ、デザイナーや企業等の優れた活動成果を表彰して日本のインテリアデザインの質的向上を図り、豊かな社会と文化の発展に寄与することを目的としています。現代の多様なライフスタイルへの提案をはじめ、デザインによる地域への貢献、福祉や環境的視点を持つ取り組み、若いデザイナーの意欲的な試みなどに対しても積極的な評価を行い、インテリアの重要性・デザインの力を社会に発信します。

JID AWARD 2016 審査員

○審査委員：ゲスト審査委員

五十嵐久枝 (IGARASHI DESIGN STUDIO 代表、武蔵野美術大学教授)

石橋勝利 (株式会社 AXIS、AXIS 編集長)

○JID 選考委員会

安藤 清 (インテリアデザイナー、企画室 A.N.D)

池田和修 (JID 理事長)

岩倉榮利 (岩倉榮利造型開発研究所 代表取締役)

川上玲子 (テキスタイル&インテリアデザイナー)

木辺智子 (インテリアデザイナー、株式会社フォーラム 取締役)

小宮容一 (芦屋大学 名誉教授)

近藤康夫 (インテリアデザイナー、東京造形大学特任教授)

清水忠男 (製品・環境デザイナー、選考委員会委員長)

米谷ひろし (TONERICO:INC. 代表、多摩美術大学准教授)

(敬称略/あいうえお順)

公益社団法人日本インテリアデザイナー協会

〒160-1008 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8 階

TEL : 03-5322-6560 FAX : 03-5322-6559

オフィシャルサイト URL <http://www.jid.or.jp/>

